

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	佐野 貴紀
主 論 文 題 名： 顔印象形成に及ぼす形態特徴と画像特徴の多面的理解 - 心理物理的・計算論的アプローチ -				
(内容の要旨) 本研究は、顔の魅力、性的二型性、支配性、信頼性の印象形成に及ぼす顔の形態および画像特徴を多面的に理解することを目的とした。研究 1 では、幾何学的形態測定法と深層学習を組み合わせ、顔印象に重要な特徴を探索するアプローチを提案し、目の周辺領域が魅力評価において重要であることを示した。研究 2 では、幾何学形態測定法により生成した顔画像を用いて、視線計測と印象評価実験を行った。さらに、深層学習を用いて、重要な顔特徴を計算論的に分析した。その結果、魅力には目と鼻、支配性には眉、性的二型性には目の周辺が重要であることが示され、評価者の性別による違いも確認された。研究 3 では、統計的因果探索手法を用いて顔特徴と印象評価の因果関係を探索し、顔の形態特徴に加え、フラクタル次元、スペクトル勾配といった画像特徴が印象形成に寄与することが示された。研究 4 では、顔への反復接触タスクを実施した。その結果、女性顔への反復接触は、女性らしさに関連する顔特徴に対する魅力評価を強化し、性的二型性の評価基準を変化させることが示された。研究 5 では、日本人とアメリカ人の評価者を対象に、性別、年齢、文化による評価の違いを調査した。その結果、性別と文化による評価傾向の違いが確認され、特に眉の角度や口の大きさに関する魅力評価の文化差が明らかとなった。 本研究は、顔印象形成に関する重要な知見を示した。まず、顔印象における重要な形態特徴と画像特徴について横断的な知見を提供した。また、顔特徴と印象評価の間の因果構造を明らかにし、印象形成に及ぼす顔特徴への理解を深化させた。加えて、印象判断基準の変動過程を調査し、それに関与する顔特徴を特定するとともに、性差や文化差に基づく印象評価傾向と対応する顔特徴の関係を明らかにした。これらの成果に加え、各研究で採用した計算論的手法の有効性が実証された。また、印象形成を動的なプロセスとして捉え、評価基準の形成や更新をモデル化する意義を提起した。本研究は、顔印象形成に及ぼす顔特徴の多面的な理解を深めるとともに、心理物理的・計算論的アプローチの応用可能性を拡張した。				